活用していますか? LINK-Jの会員サービス

LINK-Jは特別会員の皆様のビジネスをご支援するため、さまざまなサービスをご提供しています。
今回は、「コミュニケーションラウンジ」と、LINK-J公式YouTubeチャンネルについてご紹介します。

コミュニケーションラウンジをご活用ください

LINK-J会員の皆さまが自由に集い、アイデアを共有できる場として「コミュニケーションラウンジ」を設けています。このラウンジは、研究者、企業、スタートアップ、投資家など、多様なバックグラウンドを持つ方々が気軽に対話できる空間です。
明るく落ち着いた雰囲気のラウンジは、打ち合わせや情報交換に最適です。Wi-Fiや電源も完備しており、作業スペースとしてもご利用いただけます。事前予約なしでご利用いただけるため、気軽に立ち寄れるのも魅力です。

▶▶ 実はこんなところにもLINK-Jラウンジがあります(一例)

東京都・日本橋
日本橋室町三井タワー7階
GLOBAL LIFESCIENCE HUB

東京都・八重洲
東京ミッドタウン八重洲 4階
イノベーションフィールド八重洲

大阪市・北区
Nakanoshima Qross 2階

神奈川県・川崎市
川崎キングスカイフロント 1階

詳細はこちらから▶ https://www.link-j.org/about/room/

▶▶ LINK-J会員は、コーヒーが1日1杯無料となるサービス付きのCafe, Dining & Barもご利用いただけます
日本橋ライフサイエンスビルディング8・1階 「Genomic Giraffe」

詳細はこちらから▶ https://www.link-j.org/news/post-8581.html

こんな方におすすめ
他の会員と情報交換をしたい方
打ち合わせや作業のための静かなスペースを探している方
イベント参加後に交流を深めたい方

公式YouTubeチャンネル

チャンネル登録をお願いします

LINK-J公式YouTubeチャンネルでは、ライフサイエンス分野の情報を動画でお届けしています。主なコンテンツは、イベントのアーカイブ動画です。セミナーやシンポジウムをもう一度視聴できるので、参加できなかった方や復習したい方に最適です。さらに、イベントのダイジェスト、サポーター対談企画、UNIKORNプログラムの進捗紹介など、LINK-Jならではの特別コンテンツも公開中。
チャンネル登録をしていただくと、新しい動画が公開された際に通知を受け取れます。ぜひ登録して、最新情報を見逃さないようにしてください

公式チャンネルはこちらから
https://www.youtube.com/c/LINKJ

連載コラム MIYAMAN'S COLUMN

ここが不思議だ、我が国のバイオベンチャー市場(14)

「起業はまず教授の言葉を疑うことから始めよ」

最近、衝撃的なことがあった。
Nature誌など一流学術雑誌に論文を多数発表している某旧帝国大学の教授から「有望な新薬の標的を発見した。これに対する抗体や核酸医薬を開発できれば、今まで治療法の無い疾患の画期的新薬となる。ただし、特許を引き受ける会社が手を上げないと、大学が出願しない。出願費用もすべて負担する企業が無いと権利を確保できない」という相談を受けた。話を聞くと、確かに最新の免疫学の研究成果のようだ。大学の知財関係者も期待していると聞き、半分は義侠心、半分は患者さんのためという想い、収益機会への期待もあり、私は大学と共同出願する特許関連費用を負担することを決めた。ベンチャー・キャピタルの定款を変更してまで特許化に踏み切った。

導出先のバイオ・ベンチャー企業まで決めていたのだが、国際特許出願(PCT出願)に移行する際に問題が発生した。出願国などを決める際、権利侵害のリスクを確認するための特許調査を行ったところ、先行論文や特許が多数リストアップされた報告書を受け取った。対策や追加実験などを検討したものの、万策尽きて、共同出願の権利を放棄した。費用を削減できた大学は喜んで特許を引き取ったようだが、多分、あの内容では権利化することは難しいだろう。

さらに驚いたのは、教授が知財担当者に相談した際、先行発明や発表の調査を行っていなかったことだ。知財の専門家であれば、科学論文に載る新知見と権利化できる特許は次元が違うことを理解しているはずだ。

調べてみると、厚労省傘下のナショナルセンターでも、ほとんど調査せずに出願しているらしい。製薬企業は自前で特許調査をするが、教授頼みのベンチャーがこの事実を知らないことが多い。

バイオは「知財のゲーム」と言われる。知財に瑕疵があれば勝利は覚束ない。研究機関や大学に知財を精査する資金と人材が不足しているのが原因だ。アカデミア発のベンチャー起業を語るなら、知財力の強化が不可欠。私の反省としては、教授の「世界初」を疑い、費用を投入してでも、シーズ段階で徹底的に特許調査を行うことにした。投資家の皆さんにも、お勧めしたい。

宮田 満 氏

東京大学理学系大学院植物学修士課程修了後、1979年に日本経済新聞社入社。日経メディカル編集部を経て、日経バイオテク創刊に携わる。1985年に日経バイオテク編集長に就任し、2015年に株式会社宮田総研を設立、新Mmの憂鬱などメディア活動を開始。2017年、株式会社ヘルスケアイノベーションを設立、2020年6月よりバイオ・先端医療関連のベンチャー企業に投資を開始した。厚生労働省厚生科学審議会、文部科学省科学技術・学術審議会、生物系特定産業技術研究支援センターなど、様々な公的活動に従事。

※連載コラムの内容は、LINK-Jによる見解ではありません

LINK-J NEWS LETTER LINK-Jと"LINK"する情報のプラットフォーム 31

件お問合せ
一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-3-9 日本橋アイティビル2階
TEL 03-3241-4911 HP https://www.link-j.org/ FB https://www.facebook.com/link0324/

発行
株式会社ブラップジャパン
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-2 ミッドタウン・イースト8階
TEL 03-4580-9107

LINK-J NEWS LETTER

LINK-Jと"LINK"する
情報のプラットフォーム

vol 31
Dec 2025

Pick up! LINK-J's Events

日本から世界へ ── スタートアップを支援するライフサイエンス・イノベーションクラスター

LINK-BioBAY TOKYO 2025年活動レポート

活用していますか? LINK-Jの会員サービス

コミュニケーションラウンジをご活用ください

公式YouTubeチャンネルのご紹介

日本から世界へ ――スタートアップを支援するライフサイエンス・イノベーションクラスター
LINK-BioBAY TOKYO 2025年活動レポート

LINK-BioBAY TOKYOとは

LINK-J、BioLabs、三井不動産は2024年9月に東京都が実施する「TIB CATAPULT（グローバルイノベーションに挑戦するクラスター創成事業）」に採択されました。日本・米国で実績を有する三者の協業により、グローバルに活躍する日本のライフサイエンス系スタートアップ企業の創出および世界とのゲートウェイになるイノベーションエコシステムの構築を目的に、東京・新木場および日本橋でライフサイエンス領域のスタートアップ・インキュベーション・クラスター「LINK-BioBAY TOKYO」の運営を開始しています。
メンタリングやインキュベーションプログラム、ラボスペースの提供といったスタートアップ支援をはじめ様々な支援策を提供しており、2025年は、Masterclass Program、TOKYO Biotech DAYの実施、ボストンで行われたBio International Convention 2025への出展サポートなどを実施しました。本号では、活動内容をお届けします。

LINK-BIOBAY TOKYO

TOKYO Biotech DAY

2025年10月16日

「Masterclass Program by BioLabs」に選抜されたスタートアップによる成果発表のデモデイとして、2025年10月16日に東京・三井リンクラボ新木場2にて「TOKYO Biotech DAY by TIB CATAPULT／LINK-BioBAY TOKYO」が開催されました。
基調パネルディスカッションでは、パネリストに下田 裕和氏（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）調整役）と二見 崇史氏（AN Venture Partners パートナー）が登壇し、ライフサイエンスエコシステムやスタートアップ支援に関する最新動向、スタートアップが海外で活躍するには何が必要か？等について議論しました。続いて、Masterclass Program採択のスタートアップ5社によるピッチが行われました。採択企業はプログラムで提供されたメンタリングやウェビナー、本イベント直前にも実施されたワークショップの成果を発揮する機会となりました。今回は、審査員評価とオーディエンス投票で受賞企業が決定。審査員賞を受賞したINOPASEは、堂々としたプレゼンテーションと説得力のあるストーリー展開が高く評価されました。オーディエンス賞を受賞したCancerFree Biotechは、患者エピソードを起点とした分かりやすい導入が聴衆の共感を呼び、強い印象を残しました。
LINK-BioBAY TOKYOは今後もMasterclass Programなどの活動を通じ、スタートアップの成長支援を進めてまいります。次期プログラムの募集は、来年初旬に開始予定です。

Masterclass Program by BioLabsとは

2025年8月～2026年1月の実施を予定しているライフサイエンス分野のスタートアップを対象としたアクセラレーションプログラムです。BioLabsの支援により、約半年間にわたりセミナーやメンタリングが提供されています。日本を拠点とするバイオテクノロジースタートアップをサポートすることで、スタートアップの成長と技術開発を加速させ、日本のバイオテクノロジー・イノベーション・エコシステムの成長を支援します。支援内容は下記の通り。

- **オンラインウェビナー**
- **専門家によるオンラインメンタリング**
- **オンラインピッチコーチング**
- **オンサイトワークショップ受講**
- **事業会社や投資家を招いたDemoDayの登壇機会提供**

《 採択スタートアップ 》 ※アルファベット順

CancerFree Biotech
循環腫瘍細胞（CTC）由来のオルガノイド（CDO）システムを通じてがん治療の選択を支援し、不要な薬剤使用の最小化を目指す。

株式会社 INOPASE
慢性神経疾患を治療するクローズドループ個別化神経刺激療法のパイオニアとして、臨床ステージにある医療機器企業。

ミルンダ株式会社
独自のRNA修飾技術に基づくがんスクリーニングの社会実装を通じて、「がんが治る世界」の実現を目指すスタートアップ企業。

株式会社ソティステクノロジーズ
医療従事者を必要とせずに迅速かつ高感度な感染症検査を可能にするセルフ式核酸検査プラットフォームを開発。

株式会社 Theta Therapeutics
難治性、希少性疾患に向けた環状中分子特化型製剤を開発する大学発創薬スタートアップ。

VOICE 充実したウェビナーやメンタリングを通して、バイオ・メドテックの違いや日本・アメリカの違いを様々な専門的な角度から学ぶことで、事業計画のブラッシュアップや資金調達準備に繋がる示唆が得られました。

VOICE 収穫の多いイベントでした。大手製薬メーカーとの面談で具体的なフィードバックが得られたほか、新たに取り組んでいる分野の関連企業と出会え、論文ではわかりにくい最新動向や裏事情を聞くことができました。

VOICE 各ファンクションの専門家によるメンタリングを通じて、日々抱えている課題に対する解決の糸口を得ることができました。

VOICE 第一線で活躍されている製薬会社、VCの方々などの質疑応答を介して、今後の方向性や弊社の至らぬ部分を把握することができ、こちらも勉強になりました。

Bio International Convention 2025

2025年6月16日～6月19日

2025年6月16日～6月19日に米国・ボストンで世界最大規模のバイオテクノロジー関連展示会・カンファレンス「BIO International Convention2025」が開催されました。世界中の製薬企業、バイオベンチャー、大学、研究機関、投資家、政府機関など、1,500社以上の出展者と20,000人超の参加者が世界中から集まるビジネスマッチングイベントです。米国の他、アジア、中東地域から組織や企業が出展しています。LINK-Jは、スタートアップ5社を募集し、参加パス購入支援および、LINK-J Japan Night@Bostonピッチ登壇機会の提供を行いました。

「LINK-J Japan Night@Boston」開催

LINK-Jは、会期中の6月16日に在ボストン日本国領事館が入居するビルの会場にて、「LINK-J Japan Night@Boston」を開催しました。ボストンコミュニティおよび日本から計約270名の参加者が集い、ライフサイエンス・エコシステムに関する政府関連機関の活動紹介、エコシステムをテーマとしたLINK-J×BioLabsによるセミナーとネットワーキングの機会となりました。

LINK-JがBioLabs主催ポッドキャスト「b.empowered podcast series - BIO 2025」に出演

会期中、BioLabsブースにて収録される15分間の対談形式ポッドキャストに、林幾雄（LINK-J事業部長）、安賀博子（LINK-Jプロデューサー）が出演。「Fast-tracking Japanese biotech's to the global stage with BioLabs and LINK-J」をテーマに、日本のスタートアップが世界に羽ばたくための支援ビジョンや、BioLabsとの連携がもたらす日本スタートアップへの価値などについて語りました。
配信されたポッドキャストはBioLabsのYouTubeチャンネルで公開されています。

詳細はこちらから ▶

イベントの舞台裏　LINK-J　安賀博子

Masterclass Program by BioLabsには、たくさんのアーリーステージのライフサイエンス企業にご応募いただき、5つのスタートアップが採択されました。採択後はBiolabsのメンタリングやウェビナーを着実に活用いただきました。
対面開催の「Tokyo Biotech Day」では、前半行われたレクチャーで活発な質疑が生まれ、後半のピッチでも審査員から鋭い質問が続き、ネットワーキングで対話が深まっていました。
この半年で得た知見を今後の成長につなげていただけることを期待しています。
本プログラムは来年度も実施予定です。募集や説明会情報はウェブサイトに掲載しますので、ぜひご応募ください。

参加者の声
大きな資本を持つ企業との面談機会があり、事業開発担当者が交流を続けている。パートナリングに参加しないと会えない事もあるので、LINK-Jの支援は有難かった。

参加者の声
ベンチャー同士の協業という意味で、米国企業とCDAを締結して共同研究や協業の話をすることができた。

参加者の声
LinkedInにて、LINK-Jにタグ付けされた投稿からの流入が増えていた。LINK-Jはフォロワーが多いから投稿してもらえて良かった。

《 パートナー企業について 》

40社以上の団体・企業様に、イベントやメンタリングを通じたスタートアップの育成および協働事業創出にご協力いただいています。マッチングや助言を希望されるスタートアップの方はお気軽にLINK-J事務局までお問い合わせください。

《 2025年に実施した関連イベント 》

- ▶ 8.19　第2回『製薬企業が進めるオープンイノベーション』～各社の取り組み事例やWish List～
- ▶ 8.29　第2回 Science Bar in 新木場
- ▶ 9.11　LINK-J×AgVenture Lab『医食同源イノベーション：腸・菌・食から未来を創る』
- ▶ 9.12　LINK-J×AMED 創薬ベンチャーエコシステムの現在地
- ▶ 10.8～10.10　BioJapan2025ブース内ピッチコンテスト

アジア初の直営拠点「BioLabs Tokyo」新木場から世界へ、日本発ライフサイエンスを支援

世界有数のライフサイエンス・インキュベーション企業BioLabsが、アジア初の直営コワーキング・ウェットラボ「BioLabs Tokyo」を2026年春、三井リンクラボ新木場2に開設します。本プロジェクトは、三井不動産およびLINK-Jの支援のもと、研究者・スタートアップ・投資家が集う国際的な拠点として誕生します。
BioLabs Tokyoでは、1ベンチ単位から利用できる実験環境や共用機器を備え、研究に集中できる柔軟なワークプレイスを提供。国内外の専門家によるメンタリングやInvestor Dayの開催など、グローバル標準のインキュベーションプログラムも実施されます。
LINK-Jは新木場エリアの研究拠点拡大を加速させ、日本発スタートアップの国際競争力を高めるBioLabs Tokyoと連携し、イノベーションを育むコミュニティづくりをさらに推進していきます。
施設の詳細はBioLabs Tokyoをご確認ください。

BioLabsの運営するコワーキングラボの例